

## GCOE セミナー講演報告書

世話人：北川宏

開催日時： 2011年10月12日（水） 15:00～17:00（質疑応答含む）  
開催場所： 理学部6号館北棟5階 571号室  
講演者： Mohamedally Kurmoo 教授  
（ Le Centre National de la Recherche Scientifique;  
Université de Strassbourg, France）  
研究領域： 配位高分子および酸化物の磁性  
演題： Magnetism from Minerals and Metal–Organic Frameworks  
参加者： 約40人

講演は Bellitto 教授との連続講演で行われたため、大変盛況な会となった。Bellitto 教授や有機物性化学研究室のメンバー及び関連プロジェクトのメンバーの他に、工学研究科の教授・学生の参加や東北大学の教授も出席された。

Kurmoo 教授はフランスストラスブール大学にて分子磁性体の研究をリードする研究者であり、主に最新の成果について講演頂いた。磁性金属イオン、特にコバルトイオンを 0次元、1次元、2次元および3次元に配列し、酸化物イオン、水酸化物イオンなどの簡単な配位子から、シュウ酸、テレフタル酸などの有機配位子まで、様々な配位子で結合し、磁気秩序を制御することに成功している。最近ではさらに内部に細孔を有する磁性物質について研究を行っており、細孔内に取り込まれたゲストイオンがオーダーするのに伴う強誘電性の発現が期待される系についても紹介があった。

質問はゲストイオンのオーダーに集中したが、それ以外にも磁性の圧力依存性や、シュウ酸架橋二次元系における強磁性転移温度の最高値はどこにあるかなど、踏み込んだ議論が為された。



Kurmoo 教授



講演の様子